



プレーパーク レポート

第20号

2024年2月
小鹿野町



段ボールでつくった
「落ち葉バズーカー」！

冬でもたっぷり外遊びを楽しめちゃうのがプレーパーク！

真冬の気候でしたが外遊びを満喫した1月のプレーパークの様子についてレポートします。

プレーパークの醍醐味は、遊びのプログラムがなく、子どもも大人もやってみたいと思う遊びを手作りできることです。

この日も段ボールという素材を使って、子どもたちが秘密基地、乗り物、ボール転がし、ロボットなどなど様々なものを創り出していました。

子ども時代に、やりたいことに挑戦することを続けていけば、主体的に自分で人生を手作りできるように育ちます。遊ぶことって、つい軽視されがちですが、本来は人が育つための要素がすべて詰まっているのです。

「いいこと思いついた！」という子どもの声が常に聴ける良い環境がプレーパークにはあります。



この日はニャッピー食堂も同時開催されており、昼過ぎまで滞在してたっぷり遊ぶ親子がたくさんいました。

子どもに限らず大人の遊び心もたくさん動いた一日でした。大縄や焚火でのクラックビー玉づくり、お菓子を炙り焼きするなど本気で遊ぶ大人の姿。

子どもにとって、そういう大人の存在はとても大切だと思います。

いきいきと楽しそうに遊ぶ大人の姿は、「大人になるって楽しそう」と子どもに感じさせるはずですよ。



遊びの様子



段ボールで乗り物を作った子どもを大人が引いて遊んでいると、ある父親が「竹を足につけて大人が引っ張れば芝スキーできるんじゃない？」と新たな遊びのアイデアが出てきました。

遊び場には「失敗」はありません。うまくいかなかったとしたら、『うまくいかない方法を一つ学んだ』ということです。

どんどんやってみたいことをやってみる。そんな遊び場であり続けたいです。

今日のハイライト

遊び場につくなり、「工作したい！」と木工遊びのリクエスト。木材を使って工作をしていましたが、木材の在庫は使いやすい小さめの物がほとんど残っておらず、大きめの物ばかりになってしまっていました。

遊び場のお手伝いに来てくれている地域の方に相談すると「今度持ってくるよ！」と快く言ってくれました。

それから30分ほどすると…。軽トラに小さめの木材をたくさん詰めた袋を積んだ先ほどの方がいました。

今度と言っていたのに、何と仕事の早いこと。子どもたちも大喜びで運ぶのを手伝ってくれました。

プレーパークは地域みんなで支えられて成り立っています。材木、本当にありがとうございました！

